

ロシア語動詞アスペクトにおける「個別的意味」と多義ネットワーク

堤 正 典

In this paper I represent perfective and imperfective aspects of Russian verbs as categories which consist of polysemy networks respectively.

Some research into Russian verbal aspect has explained the perfective as a marked element that generally carries the meaning of “totality,” whereas the imperfective is an unmarked element that generally expresses neither “totality” nor “non-totality” actively. The specific meaning of both the perfective and imperfective are derived when the general meaning is rendered specific through context. The general meaning and the specific meaning are, respectively, “invariant” and “variant,” and are equivalent to the phonemes and allophones of structural phonemics. Thus, this can be referred to as the “invariant-variant model.”

Another model can, however, be proposed: the polysemy network model. Evaluating the specific meanings of perfective and imperfective expressions shows that they consist of polysemy networks (or radial categories) which typically consist of a central (prototype) member and some peripheral members connected with each other. The perfective Russian aspect is composed of a network which has a concrete-factual meaning as the central member, while in the case of an imperfective network it is difficult to identify such a member.

キーワード：ロシア語動詞、アスペクト、多義、ネットワーク、放射状カテゴリー

1. はじめに

ロシア語の動詞はアスペクトのカテゴリーとして完了体と不完了体の2種類が存在する¹。これらが何を表すかは長く論争があり、様々な提案がなされてきた。しかし、その多くには反例が存在し、それぞれの体の意味のすべてを包括的に表すものとは言えなかった²。また、それぞれの表す

意味を比較的包括的にとらえていそうな見解は非常に抽象性の高いものであり、実際の用法とどのように結びついているかわかりやすいとは言えない。

それぞれの体が包括的あるいは総合的に表す意味は「一般的意味」(общее значение) と呼ばれる。それは個別の文脈に応じていくつかの「個別的意味」(частное значение) として現れるとされる (Маслов 1959, 1984; Бондарко 1967, 1971; Рассудова 1968, 1982 等)。

一般的意味と個別的意味の関係は、構造主義的な音素論での音素と異音の関係に相当すると言えよう。この関係は、より一般的には invariant (不変) と variant (変異) のそれである。音素は種々のコンテクストにより異音としてあらわれ、それらの異音は共通の特徴を有し、それがその音素が他の音素と区別される弁別の特徴となっている。音素は弁別特徴の束である。しかし、ロシア語動詞の完了体と不完了体において、その一般的意味と個別的意味の関係は、音素と異音の関係ほど明瞭なものではない。

不変と変異による分析に代わるものとして、「放射状カテゴリー」(radial category) のように、ひとつのカテゴリーが内部にネットワークを有したものとして分析する考え方がある (Lakoff 1987)。この考え方では、ある言語形式が複数の意味をもつならば、それらをプロトタイプ的な中心義と周辺の意味をつなぐネットワーク (多義ネットワーク) としてひとつのカテゴリーとなっているものとする。本論は、ロシア語動詞アスペクトについての一般的意味と個別的意味による分析を見直し、完了体と不完了体の個別的意味がそれぞれ多義ネットワークを成していることを示す。

本論はこのあと次の構成となっている。第2節で従来の分析におけるロシア語の完了体・不完了体それぞれの一般的意味と個別的意味を概観する。第3節でそれぞれの個別的意味が多義ネットワークを形成するものとして見直し、また、ロシア語アスペクトにおける従来の一般的意味・個別的意味による分析 (不変・変異モデル) と多義ネットワークによる分析についても若干の考察を行う。第4節はまとめである。

2. ロシア語動詞アスペクトの「一般的意味」と「個別的意味」

本節では、ロシア語動詞の完了体と不完了体について従来の一般的意味と個別的意味を概観する。また、それぞれの体の個別的意味の間の関係に

ついて述べる。

2.1 完了体・不完了体の一般的意味

完了体の一般的意味として広く受け入れられているのは「全一性」(целостность) の意味特徴によるものであろう (Маслов 1959, 1984; Исаченко 1960; Бондарко 1967, 1971; Рассудова 1968, 1982; Шведова и др. 1980 等)³。

完了体と不完了体は欠如的対立をなし、前者は有標項、後者が無標項とされる。完了体は有標項として常に全一性を表すが、それに対して、不完了体は無標項として全一性の特徴を表すことも、表さないことも明示しないとされる (具体例については、2.2 以下を参照のこと)。不完了体が無標項であるということは、すなわち、不完了体は全一性の特徴をもたない文脈に現れる他に、それをもつ文脈にも現れうることになる (下記 (21) 参照)。

2.2 完了体・不完了体の個別の意味

ラースドヴァは完了体の個別の意味として、以下の「具体的事実の意味」「一括化の意味」「例示の意味」の3つを挙げている (Рассудова 1982: 10)⁴。

(1) 具体的事実の意味 (конкретно-фактическое значение)⁵

| | | | | |
|----|---------------------|--------|---------|---------------|
| Он | <i>повторил</i> | мне | свой | вопрос. |
| he | repeat (pfv): pst.m | me.dat | his_own | question. acc |

「彼は私に自らの質問を繰り返した。」

(2) 一括化の意味 (суммарное значение)

| | | | | |
|----|---------------|---------------------|---------|---------------|
| Он | несколько раз | <i>повторил</i> | свой | вопрос. |
| he | several times | repeat (pfv): pst.m | his_own | question. acc |

「彼は何度か自らの質問を繰り返した。」

(3) 例示の意味 (наглядно-примерное значение)

| | | |
|--------------------------------------|-------------------|---------------------|
| Если вы не поймете | | мое объяснение, |
| if you not understand (pfv): fut.2pl | | my explanation. acc |
| я всегда могу | <i>повторить</i> | его вам. |
| I always am_able_to | repeat (pfv): inf | it.acc you.dat |

Я всегда *повторю* его вам.
 I always repeat (pfv): fut.lsg it.acc you.dat

「私の説明がお分かりにならないければ、私はいつでもあなたに繰り返すことができます。

私はいつでもあなたにそれを繰り返します。」

また、ラースドヴァは不完了体の個別的意味として、以下の「具体的過程の意味」「非限定回数の意味」「一般的事実の意味」の3つを挙げている (Рассудова 1982: 10)。

(4) 具体的過程の意味 (конкретно-процессное значение)

Молодая женщина *сидела* у окна вагона и
 young woman sit (ipfv): pst.f by window of_carriage and
читала.

read (ipfv): pst.f

「若い女性が列車の窓側に座って読書していた。」

(5) 非限定回数の意味 (неограничено-кратное значение)

Иногда я *перечитывал* писателей, которых особенно
 sometimes I reread (ipfv): pst.m writer.acc whom especially
 любил.

love(ipfv):pst.m

「時折私は大好きな作家を読み返した。」

(6) 一般的事実の意味 (общефактическое значение)

Вы *читали* эту повесть? В каком журнале вы
 you read (ipfv): pst.pl this story. acc in which journal you
 ее *читали*?

it.acc read (ipfv): pst.pl

「あなたはこの物語を読んだことがありますか。どの雑誌でそれを読んだのですか。」

以下、完了体・不完了体の個別的意味のそれぞれについて述べていく。

2.3 完了体「具体的事実の意味」

(7)の具体的事実の意味は特定の一回の状況⁶を表す。ひとつの状況は「開始部, 持続部, 終了部」の局相 (phase, фаза) から成り立つが, 完了体はそれを分割せずひとまとまりとして(全一的に)示す⁷。また, (7)のように, 文において「いつ・どこで」が示されていないと, 特定の時空間に結びついた一回の状況(動作)を表す。

- (7) 具体的事実の意味 (конкретно-фактическое значение) = (1)
 Он *повторил* мне свой вопрос.
 he repeat (pfv): pst.m me.dat his_own question. acc
 「彼は私に自らの質問を繰り返した。」

この意味では「完成(あるいは完了, 終了)」あるいは「結果達成」の意味ニュアンス(отенок)をともなうことがある⁸。

- (8) a. Туристы поднялись на гору. (Рассудова 1982: 6)
 hikers go_up(pfv):pst.pl onto mountain
 「ハイカーたちは(その)山に登った(登りきった)。」
 b. Ура! Я решил задачу! (Рассудова 1982: 6)
 hurray I solve (pfv): pst.m problem. acc
 「ヤッター。問題を解いたぞ。」

この具体的事実の意味が完了体の個別的意味の中では主たるもの, 基本的なものであるとされる(Бондарко 1967: 52-54, 1971: 22-24; Рассудова 1968: 8, 1982: 10)。

2.4 完了体「一括化の意味」

(9)の一括化の意味は, 実際上は複数回行われた動作が完了体で表されている。磯谷(1977: 3)は「複数動作の一括化は, 具体的, 特定の時点において, 続け様になされた反復動作をひとまとめにして一回動作と見立てることである」と解説している。

- (9) 一括化の意味 (суммарное значение) = (2)

Оннесколько раз **повторил** свой вопрос.
 he several times repeat(pfv):pst.m his_own question. acc
 「彼は何度か自らの質問を繰り返した。」

個々の実際の動作である「アクト」(акт) と文が表す「状況」(ситуация) を区別すると, (9) では特定の単一の全一的状況ではあるが, 立て続けの複数のアクトを含んでいるのである。一括化の意味は具体的事実の意味 (単一のアクトによる単一の特定の全一的状況) からの派生としてとらえられる (Бондарко 1967: 54, 1971: 24; Рассудова 1968: 8, 1982: 11)。一括化の意味では, 完了体は回数限定する副詞句 (несколько раз 何度か, два раза 2回, 等) と共起する。なお, 特定一回の完了体は, 習慣的な繰り返しを表す副詞句とは共起しない。

- (10) каждый раз } выходил / *вышел (Бондарко 1971: 54)
 часто }
 иногда }
 every time } go_out(ipfv):pst.m / go_out(pfv):pst.m
 often }
 sometimes }
 「毎回／頻繁に／時々 出た」

2.5 完了体「例示の意味」

(11) の例示の意味は一回の (全一的) 状況をひとつの例として, 繰り返されうることも含意したものとして示される。

- (11) 例示の意味 (наглядно-примерное значение) = (3)

Если вы не поймете мое объяснение,
 if you not understand(pfv):fut.2pl my explanation. acc
 я всегда могу **повторить** его вам.
 I always am_able_to repeat(pfv):inf it.acc you.dat
 Я всегда **повторю** его вам.
 I always repeat(pfv):fut.lsg it.acc you.dat

「私の説明がお分かりにならないければ、私はいつでもあなたに繰り返すことができます。
私はいつでもあなたにそれを繰り返します。」

これは「具体的事実の意味」（および「一括化の意味」）とは異なり、特定性が除かれたことにより表されるものとされ、やはり具体的事実の意味からの派生とされる（Бондарко 1967: 54; 1971: 24; Рассудова 1968: 8, 1982: 11）。具体的事実の意味（および一括化の意味）では単一の状況が特定の時間に結びついていたのに対し、この例示の意味は特定性を失い、時間軸上に複数回現れうるものとして示されているのである。

実は、ボンダルコは（11）のような例を「可能の意味」（потенциальное значение）としており、それには以下のようなものが挙げられている（Бондарко 1971: 23）。

- (12) В букинистических магазинах, и то случайно, отыщешь
in second-hand bookshop by_sheer_chance find (pfv): prs.2s
ныне кинги этих писателей...
now books_acc of_these_writers
「古書店ではまったく偶然にこれらの作家の本を見つけることができる。」

- (11) と (12) で「～できる」という可能の意味は共通している。
一方、「例示の意味」として挙げられたものは以下である（Бондарко 1971: 23）。

- (13) После обеда бабушка имела обыкновение
after dinner grandmother have (ipfv): PST.F habit
отдохнуть...
rest (pfv): inf
「ディナー後に祖母は休息する習慣があった。」

完了体の *отдохнуть* は休息のプロセス（持続部）だけではなく、休息によりレフレッシュすること（終了部）までも含んでいる。文としてはそれが繰り返されることを意味している。

ボンダルコは例示の意味と可能の意味は近く、可能の意味は例示の意味に可能のモダリティ的な意味ニュアンスがプラスされていると述べている(Бондарко 1971: 23)。ラースードヴァ(Рассудова 1982)はこのような近さからこのふたつを例示の意味にまとめていると考えられる。

2.6 完了体の個別の意味のまとめ

上述のように、完了体の個別の意味では、特定一回状況の「具体的事実の意味」(1=7)が基本的用法とされ、複数アクトを含む特定一回状況の「一括化の意味」(2=9)、および、特定性を取り除き一回の状況が反復されうることを表す「例示の意味」(3=11)の2種の派生的意味が区別されている。

2.7 不完了体「具体的過程の意味」

(14)の具体的過程の意味は特定一回の状況を過程(プロセス)として表している。完了体の具体的事実の意味と異なるのはそれが状況を(開始部・持続部・終了部を分割せずに)全一的に表すのに対し、(14)はもっぱら持続部に注目している。

- (14) 具体的過程の意味 (конкретно-процессное значение) = (4)
- Молодая женщина *сидела* у окна вагона и
 young woman sit(ipfv):pst.f by window of_carriage and
читала.
 read(ipfv):pst.f
 「若い女性が列車の窓側に座って読書していた。」

これは持続を表す副詞句と共起する。

- (15) Он долго читал книгу.
 два часа
 весь утро
 he for a long time read(ipfv):pst.m book.acc
 for two hours
 all morning
 「彼は長いこと／2時間／午前中ずっと本を読んだ(読んでいた)。」

なお、ボンダルコは「不変的連続の意味」(постоянно-непрерывное значение)として次の例を挙げている (Бондарко 1971: 30)。

- (16) Река текла, когда ребяташек еще не было
 rever(f) flow(ipfv):pst.f when children.gen still notbe(ipfv):pst.n
 на свете,
 on world
 и она будет течь, когда их не будет.
 and it(f) will flow(ipfv):fut.3sg when they.gen not be(ipfv):fut.3sg
 「子供たちがこの世にまだいない頃に川は流れていたし、彼らがいなくなっても流れているだろう。」

これは、具体的過程の意味と異なり、特定の時に起こる状況とは考えにくい、持続的状況という点で共通している。ラースドヴァ (Рассудова 1982) はこれらを具体的過程の意味にまとめていると考えられる。

2.8 不完了体「非限定回数の意味」

(17) の非限定回数の意味は、アクトが繰り返されるが、その回数是非限定というものである。

- (17) 非限定回数の意味 (неограничено-кратное значение) = (5)
 Иногда я *перечитывал* писателей, которых особенно
 sometimes I reread(ipfv):pst.m writer.acc whom especially
 любил.
 love(ipfv):pst.m
 「時折私は大好きな作家を読み返した。」

これは「習慣」と言い換えてもよいと考える。習慣はそのアクトが繰り返されるが、個々のアクト自体が動詞によって指示されているわけではない。(17) の例文のように過去形が用いられれば過去のある時期の習慣を表すことになる。具体的過程の意味の(14)および(15)はそのアクト(「座っていた」と「読書していた」こと)はそれがひとつのプロセスとして(持続するひとつのアクトとして)存在する時間帯にのみ真である。一方、非

限定回数の意味の (17) はそれが真であるならば、その期間は実際に「読み返す」こと (アクト) をしていない時も含めて (17) は真である。(14) の具体的過程の意味とは異なり、個別のアクト (の持続) を指し示すわけではないが、ある時期を通して持続的に真であることを表すことは (単一の) プロセスが真である具体的過程の意味とは類似性がみとめられる。なお、不完了体の非限定回数の意味は、完了体の例示の意味が一回の全一的状況を例として示すのとは異なっている。

また、ボンダルコは不完了体に「可能特性の意味」(потенциально-качественное значение) を挙げている (Бондарко 1971: 30)。

- (18) А ты и на скрипке играешь?
and you violin play (ipfv):prs.2s
「それで、あなたはバイオリンを弾けますか。」

これは動作主の技能や可能性を表している。ボンダルコはこれが非限定回数の意味と近いことをみとめている。どちらも特定の時に限定されず、繰り返されうるが、こちらには可能のモダリティの意味ニュアンスが加わっている。ただし、完了体の可能の意味とは全一的な状況ではないところが異なる (Бондарко 1971: 31)。ラスードヴァ (Рассудова 1982) はこれを非限定回数の意味にまとめていると考えられる。

2.9 不完了体「一般的事実の意味」

(19) の一般的事実の意味は、同じ不完了体の (14) の具体的過程の意味および (17) の「非限定回数の意味」と比べても、プロセスや反復という特徴が特に表れることのない用法である。

- (19) 一般的事実の意味 (общефактическое значение) = (6)
Вы читали эту повесть? В каком журнале
you read (ipfv):pst.pl this story. acc in which journal
вы ее читали?
you it.acc read (ipfv):pst.pl
「あなたはこの物語を読んだことがありますか。どの雑誌でそれを読んだのですか。」

「アクトの少なくとも一回の出現」を表すと言える。場合によっては、何回か起こってもよく、その回数が複数であり、非限定であることが文脈上明らかであれば非限定回数の意味となる。また、特にある一回のプロセスに注目すると具体的過程の意味につながってくる。

ボンダルコは「限定回数の意味」(ограничено-кратное значение) を挙げている (Бондарко 1971: 31)。

- (20) Три раза подогрела тебе обед.
 three times heat-up(ipfv):pst.f you dat dinner.acc
 「(私は) 三度あなたのためにディナーを温めなおした。」

これは続け様のアクトを単一の状況としているわけではないので、完了体の一括化の意味とは異なる。ボンダルコは一般的事実の意味から派生したものとしている (Бондарко 1971: 31)。「アクトの少なくとも一回の出現」においてアクトの出現回数が限定されている場合である。

ところで、完了体と不完了体の対立において、不完了体は無標項で、完了体もつ全一性という特徴を明示しない (あるともないとも言わない) とされる。それは (14) (あるいは (21a)) や (17) のように全一的な状況とは異なる場合もあれば、次の (21b) のように全一的状況を表す際にも用いられる場合があるということである。(21a) の解釈は具体的過程の意味であり、(21b) は一般的事実の意味である。

- (21) Туристы поднимались на гору. (Рассудова 1982: 8)
 hikers go_up(ipfv):pst.pl onto mountain
 a. 「ハイカーたちは (その) 山に登っていた。」
 b. 「ハイカーたちは (その) 山に登った (ことがある)。」⁹

2.10 不完了体の個別的意味のまとめ

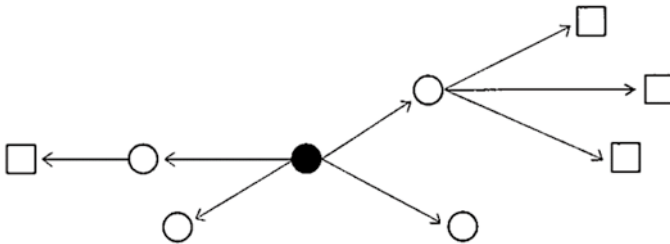
不完了体の個別的意味については、完了体のように基本的意味がどれであるかについてはいくつかの見解がある¹⁰。また、完了体ほどは基本的意味と派生的意味の区別が明確ではないとされる (Бондарко 1967, 1971; Рассудова 1968, 1982)。

3. ロシア語アスペクトと多義ネットワークモデル

3.1 多義ネットワークとしての完了体・不完了体

内的構成をもつカテゴリーのモデルとして放射状カテゴリー (radial category) がある (Lakoff 1987)。これはそのカテゴリーの中心的成員であるプロトタイプが周辺の成員 (二次的成員) と結びついた形をしており, 場合によっては二次的な成員は複数存在し, また, 周辺の成員はさらに三次的成員や四次的成員と外側に連なっていく。(22) では, ●がプロトタイプ (一次的成員) であり, ○は二次的成員で, さらに□の三次的成員が外側に存在する。

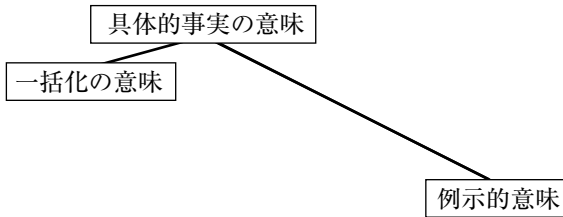
(22) 放射状カテゴリーのひな型 (辻 2013: 340)



このようなネットワークのモデルは意味の分野でも適用される。このモデルにより, 多義であるひとつの形式においてそれが表す種々の意味が中心的なものから周辺のなものへとつながっている「多義ネットワーク」であることを示すことができる¹¹。

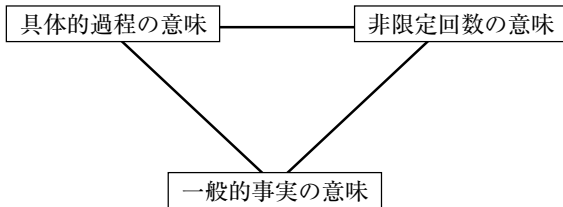
第2節で示した完了体と不完了体も個別の意味により多義ネットワークを形成している。完了体は, 具体的事実の意味を中心 (起点) として, 特定一回状況に複数のアクトが含まれる一括化の意味がつながり, また, 特定性を失った例示の意味がつながっている¹²。

(23) 完了体の多義ネットワーク



不完了体の個別的意味はどれが中心であるかを決定するのは、完了体の場合と比べて難しい。本論では (24) のような三すくみの関係と考えることにする。

(24) 不完了体の多義ネットワーク



明白なプロトタイプが存在しないことは多義ネットワークとしては少々異例であるかもしれないが、このようなネットワークも存在しうるだろう¹³。

3.2 不変・変異モデルと多義ネットワークモデル

ロシア語アスペクト研究における完了体と不完了体それぞれの一般的意味および個別的意味の分析は不変と変異のモデルによる分析である。不変・変異の分析の代表例は構造主義的な音素論における音素と異音である。ロシア語アスペクトにおける一般的意味とその個別的意味の関係は、音素論における音素とその異音の関係にパラレルな点がみとめられる。コンテキスト・環境によって変異（異音／個別的意味）が現れ、それらの変異に共通する特徴（不変：音素 [= 弁別的特徴の束] / 一般的意味）により他と区別されるのである。

しかし、異なる側面もある。音素の場合、どのような条件でどの異音が現れるかを決めるのは形式によるコンテキストである。例えば、日本語の音素 /N/（「ン」）は /m/ の前では異音 [m]（サンマ）が現れ、/n/ の前では [n]（サンネン）が現れる。しかし、ロシア語アスペクトの個別の意味においては形式によるコンテキストでの特定は難しい。形式と意味とが絡みあった中に個別の意味は現れるため、複雑であり、すべての条件が解きほぐされたとは言えない。このことは多義ネットワークでも解決できるわけではないが、不変・変異モデルにおいては変異出現の条件の特定はより重要な位置づけにある。しかし、それが明確にはできないことは不変・変異モデルとしては大きな欠点である。

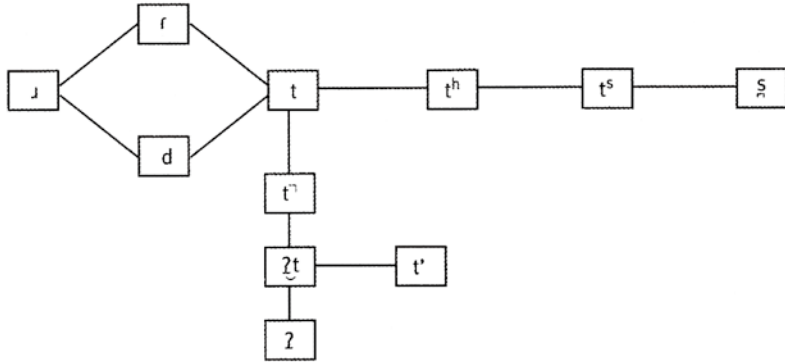
また、音素論は音声学に基づいており、音声学（特に調音音声学）は長い研究の伝統のなかでかなり確立された分野である。個々の音声の特徴はかなり明らかになっている。すなわち、音声学により種々の音声はいわゆる「専門家カテゴリー」(expert category) となっていると言えよう。不変・変異モデルでの分析は専門家カテゴリーであればうまくあてはまる (Taylor 2003)。構造主義的な音素論が成功を得たのは音声学で個々の音声に（専門家カテゴリーとして）かなり明確な定義がなされていたからである。しかし、ある分野で成功したモデルが、ロシア語動詞アスペクトなどのような別の分野に適用できるという保証はなく、また適用すべきであるとは限らない。

さらに、音素のもつ弁別の特徴に比べて、「全一性」という完了体の意味特徴は非常に抽象的であると言わざるを得ない。日本語の音素 /N/ であれば、すべての異音は1モーラをなすことと鼻音であることが共通で、それが他の音素と区別される特徴となっている。音声学の知識があれば、これらのイメージはむずかしくはないだろう。一方、2.3で「ひとつの状況は開始部・持続部・終了部の局相から成り、完了体はそれを分割せずにひとまとまりして示す」と述べたが、これは非常に理想的なものであり、個別の文が表す状況でそれぞれの局相が特定できないこともあるだろう。抽象的な意味特徴である全一性は必ずしもイメージしやすい意味特徴とは言えないだろう。それに対して、多義ネットワークは、より具体的なイメージしやすい意味をつなぐものである。

なお、ひとつの音素における種々の異音の関係は (25) のようにネットワークモデルでも示すことができる。不変・変異モデルで示せたものはネッ

トワークモデルでも示せると言えるだろう。

(25) 英語の /t/ の異音のネットワーク (Taylor 2003: 252)¹⁴



ロシア語のアスペクト研究では、一般的意味を探求する中で、その表現の精度を上げて包括性を満たそうとしてきたが、それでも、イメージしにくかったり、個別の意味などの個々の用法との関係が分かりづらかったりするものとなった。多義ネットワークモデルを採用することにより、個々の用法間関係は見やすくなるだろう。

実際には、ボンダルコやラスードヴァのロシア語アスペクト研究における個別の意味は、多義ネットワークモデルの分析で取られるような方法が用いられている部分がある。ひとつは、すでに第2節で述べているように、個々の個別の意味の関係に言及していることである。また、完了体の個別の意味における基本的なものとして具体的事実の意味を挙げているが、個別の意味の中で基本的なもの（中心的なもの）を想定している¹⁵。これらは多義ネットワークの分析にも共通するものである。

ところで、多義ネットワークモデルを採用した場合、一般的意味（不変）はどのような位置づけとなるのであろうか。一般にプロトタイプを中心とする認知言語学的なアプローチでは、不変の探求については冷淡である。不変について論じるのであれば、それは放射状カテゴリーのようなネットワークを内在するカテゴリーを考察する立場とは別のアプローチであることを認識する必要がある¹⁶。

4. まとめ

本論では、ロシア語アスペクトの意味用法について、従来の不変・変異モデルではなく、多義ネットワークモデルで表すことができることを示した。その際、完了体については中心と周辺という典型的なネットワークとなっているが、不完了体については中心と周辺を区別しにくいネットワークとしては少々異質なものとなっている。

個別の意味は本論で主として取り上げたもの以外を区別する研究もあり、また、さらに「意味ニュアンス」(отенок)が区別されることもある。本論では多義ネットワークとしてのロシア語の完了体と不完了体の概要を示したに過ぎない。それらのさらなる詳細については機会を改めて論じたい。

註

- 1 本論では、ロシア語動詞の2種類のアスペクトについて、日本のロシア語学の慣習に従い「完了体」「不完了体」の用語を用いる。なお、ロシア語ではそれぞれ совершенный вид, несовершенный вид である(ロシア語文献では略号として CB と HCB が使われることが多い)。また、英語では完了体は perfective aspect, 不完了体は imperfective aspect であり、本論の例文のグロスではそれぞれ pfv と ipfv としている(他のグロスの略号については註5を参照のこと)。
- 2 体の一般的意味の種々の提案とそれに対する反論についてのまとめのひとつとして Бондарко (1967: 30-31) がある。また、Зализняк, Шмелев (2000: 34-35) や Сичинава (2011) はより近年の諸説に言及している。
本論は個別の意味間の関係を考察するのが目的なので、一般的意味のそれぞれについての検討を行うことはしない。
- 3 Comrie (1976) はロシア語やスラヴ系言語だけが対象というわけではなく、一般言語学的にアスペクトを論じようとしているわけであるが、やはりこれらの見解を踏襲していると言える。
なお、シュヴェドヴァ他編によるいわゆる『80年文法』(ソ連科学アカデミー)では完了体を「限界によって限定された全一的動作」(ограниченное предельное целостное действие)として「限界」(предел)を定義に含めている(Шведова и др. 1980: § 1386)。「体のカテゴリー」(Категория вида)の執筆者は §§1386-1436 が Н. С. Авилова で、残りの「体の用法」(Употребление видов: §§1437-1454)が А. В. Бондарко である。
また、Рассудова (1982) は完了体に関して「全一性」と並んで「限界」の意味も挙げているが、厳密には前者が完了体の一般的意味であるとしている(6頁)。
- 4 本論では、完了体および不完了体の個別の意味について Рассудова (1982) を基に述べる(Рассудова 1968 と例文は同じだが、名称が若干異なっている)。

また、Бондарко (1967, 1971) は Рассудова (1968, 1982) にはない個別の意味を挙げているが、本論で考察しているように、後者はそれらをそれぞれの体で3つずつにまとめ上げていると言える。

なお、Шведова и др. (1980: §§1437-1454) は общее значение (一般的意味) と частное значение (個別の意味) の用語を用いず、代わりにそれぞれ категориальное грамматическое значение (カテゴリー的の文法的意味) と тип употребления (用法タイプ) としているが、用法タイプとしては従来の個別の意味に挙げられていたのと同様のものが挙げられている。文法形式の意味についてのとらえ方の変更に關わるものだが、本論ではそのことには深入りしないこととする(註3でも述べたが、《Употребление видов (§ § 1437-1454)》(体の用法)の執筆者は А. В. Бондарко である)。「カテゴリー的意味」については Бондарко (1978) が論じている。

- 5 例文に添えるグロスは Leipzig Glossing Rules (<https://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php> [2016年9月閲覧]) に従う。なお、本論の論旨と直接かわらない語については文法的な情報を省略している場合がある。
- 6 動詞を含む文が表す事態はロシア語文献では多くの場合 действие とされ、それは日本語では「動作」と訳されることが多いが、本論では「状況」(situation, ситуация) を用いることにする。なお、Comrie (1976: 13) は situation を用いている。
- 7 持続部が存在しない状況もあり、その場合は開始部と終了部の区別もなく、「ひとつの点」のような状況となる。そのようなものとして прийти「到着する (pfv)」(ipfv: приходиться) や найти「見つける (pfv)」(ipfv: находить) などがある。

なお、全一的状況とは(開始部・持続部・終了部の局相に)「分割できない」とされる(Маслов 1959; Бондарко 1967, 1971)。「分割できない」ということは、「点」としてとらえることができると言ってよいだろう。しかし、その点としての状況は持続部を含むことを含意することがある。すなわち、完了体が全一的状況を表すということは、持続部を含意することもある「点」としての状況を表すことと言い換えられる。

拙論(堤 1989)では、Vendler の分類 (Vendler 1957/1967) をふまえたロシア語動詞の考察において、完了体は動詞語彙を achievement 化したものであるとしている。不完了体の種々の動詞語義 (state, activity, accomplishment, achievement) が、対応する完了体ではすべて achievement として表されるわけである(様々なアスペクト研究で achievement はしばしば「点」としてとらえられる)。

また、Зализняк, Шмелев (2000: 35-37) は存在論的に現象 (явление) には событие (イベント), процесс (プロセス, 過程), состояние (ステート, 状態) の3種があり、完了体の意味を событие としている (событие はひとつの состояние が他のものに交替することとされる)。不完了体には3種とも存在しえて、体のペアを分類した表でそれぞれに Vendler の分類の名称を添えている (Зализняк, Шмелев 2000: 61, таблица 1)。すなわち, событие を achievement, неопределённый процесс (非限界的プロセス) を activity, предельный процесс (限界的プロセス) を accomplishment, состояние を state としている。また, 同表では, 完了体も不完了体も событие の体のペアの例として находить (ipfv) – найти (pfv) 「見つける」を挙げている。

- 8 磯谷 (1977: 4) は「個別的意味の実現は、さらに細かな種々の意味ニュアンスをともなう」と述べている。
- 9 他に、全一性の文脈で不完了体が現れる場合としては歴史的現在がある。下の例は歴史的現在で不完了体現在形 *раздается* (inf: раздаваться) が用いられている。過去形ならば完了体の *раздался* (inf: раздаться) が用いられる。

Кругом все тихо... Вдруг *раздается* выстрел.
 around all still suddenly resound (ipfv):prs.3sg shot
 「あたりは静寂。突然銃声が鳴り響く。」

(Бондарко 1971: 13)

完了体過去形を歴史的現在に変換すると、対応する不完了体に置き換えられると考えられている（「マスロフ判定」(критерий Маслова) : Маслов 1948; Зализняк, Шмелев 2000: 47-52)。上の例の *раздаться* (pfv) – *раздаваться* (ipfv) のような完了体と不完了体は「体のペア」(видовая пара) と呼ばれる。

- 10 Бондарко (1967: 58) は自らが区別する不完了体の個別駅意味のうちどれが基本的なのかを区別するのは難しいとしたうえで「具体的過程の意味」と「非限定回数の意味」と「一般的事実の意味」を重要なものと考え、それらのうちのどれが主要なものかの根拠はないとしている。Бондарко (1971: 31-32) は不完了体の個別の意味の階層では「具体的過程の意味」と「非限定回数の意味」が最上位にあるものとしている。また、Рассудова (1968: 8) は区別する3つの不完了体の個別の意味のうちどれが基本とも言えないとし、Рассудова (1982: 10) は不完了体が非全一性を表すことができることを示すとして「具体的過程の意味」が基本的としている。
- 11 多義的な文法形式の放射状カテゴリーモデルによる分析として、チェコ語の与格について論じた Janda (1990) がある。また、Janda らは一連の研究 (Janda et al. 2013 等) で、ロシア語動詞の接頭辞の意味を放射状カテゴリーモデルを用いて分析している。
- 12 第2節では、個別の意味だけではなく、意味ニュアンスにも言及することもあったが、本論はロシア語の完了体・不完了体が多義ネットワークを成すカテゴリーであることを示すのが主要な目的であり、その詳細を示すことではないので、Рассудова (1982) の個別の意味だけで多義ネットワークを表すこととする。(23) と (24) で、意味ニュアンスは三次の成員あるいは四次の成員として図示されることになるだろう。本論ではそれは省略していることになる。
- 13 本論における不完了体の個別の意味同士の関係についての考え方は Бондарко (1967) や Рассудова (1968) の見解に近いということになる。
- 14 (25) で周辺の位置におかれた異音は、この音素が不変・変異モデルで弁別の特徴を設定した場合に、その特徴を共有していることをみとめにくい音声であり、不変・変異モデルではこれらの異音が排除されてしまう可能性がある。ネットワークのモデルではそれらも含み込むことができ、より実情に合った記述が可能となる。
- 15 瀬戸 (2007) は多義ネットワークモデルを用いて語を記述した辞書であり、「中心義の設定」のための方針が示されている (3 頁)。その中には「関連する他の意義を

理解する上での前提とな(る)「用法上の制約を受けにくい」「意義展開の起点(接点)となることが最も多い意義である」が挙げられており、それらは第2節で述べたロシア語アスペクトの個別的意味の記述にも通じるものがある。

- 16 Taylor (2003) は不変・変異モデルを取るような立場を「古典的アプローチ」(classical approach)と呼んで、プロトタイプやそれを中心とするネットワークを論ずる立場と区別している。

参考文献

- Бондарко, А. В. 1967. Глагольный вид и способы действия // А. В. Бондарко и Л. Л. Буланин. *Русский глагол*. Ленинград: Просвещение, Ленинградское отделение.
- Бондарко, А. В. 1971. *Вид и время русского глагола: значение и употребление*. Москва: Просвещение.
- Бондарко, А. В. 1978. О категориальных значениях видов русского языка. // *Семантика и функционирование категории вида русского языка. Вопросы русского аспектологии* III. Тарту: Тартуский государственный университет.
- Зализняк, Анна А., А. Д. Шмелев. 2000. *Введение в русскую аспектологию*. М.: Языки русской культуры.
- Исаченко, А. В. 1960. *Грамматический строй русского языка в сопоставлении с словацким. Морфология*. II. Братислава: Издательство Словацкой академии наук.
- Маслов, Ю. С. 1948. Вид и лексическое значение глагола в современном русском языке. // *Известия АН СССР, отд. лит. и яз.* Т. 7. Вып. 4: 303-316. (В кн.: Маслов 1984, С. 48-65.)
- Маслов, Ю. С. 1959. Глагольный вид в современном болгарского литературного языка (значение и употребление) // *Вопросы грамматики болгарского литературного языка*. Москва: Изд-во АН СССР.
- Маслов, Ю. С. 1984. *Очерки по аспектологии*. Ленинград: Изд-во Ленинградского университета.
- Рассудова, О. П. 1968. *Употребление видов глагола в русском языке*. Москва: Изд-во Московского университета. (ラースードヴァ, オー・ペー (磯谷孝訳編). 1975. 『体の用法: ロシア語動詞』吾妻書房.)
- Рассудова О. П. 1982. *Употребление видов глагола в современном русском языке*. изд. 2-е, испр. и доп. Москва: Русский язык.
- Сичинава Д. В. 2011. Вид. Материалы для проекта корпусного описания русской грамматики (<http://rusgram.ru>). На правах рукописи. Москва. (Accessed in Sep. 2016.)
- Шведова, Н. Ю. и др (ред.). 1980. *Русская грамматика*. В 2-х тт. Москва: Наука.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect: an introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Janda, Laura A. 1990. The radial network of a grammatical category: its genesis and dynamic structure. *Cognitive Linguistics* 1-3: 269-288.
- Janda, Laura A. et al. 2013. *Why Russian aspectual prefixes aren't empty: prefixes as verb classifiers*. Bloomington, IN: Slavica Publishers.
- Lakoff, George. 1987. *Women, fire, and dangerous thing. What categories reveal about the mind*. Chicago: University of Chicago Press. (池上嘉彦・河上誓作・他訳. 1993. 『認知意味論 言語から見た人間の心』紀伊國屋書店.)
- Taylor, John R. 2003. *Linguistic categorization*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press. (辻幸夫・他訳. 2008. 『認知言語学のための14章〈第三版〉』紀伊國屋書店.)
- Vendler, Zeno. 1957. Verbs and times. *The Philosophical Review* 66-2: 143-160. (In *Linguistics in philosophy*, Ithaca, N.Y.: Cornell University Press, 1967, pp.97-121.)

磯谷孝 (編著). 1977. 『演習ロシア語動詞の体』吾妻書房.

瀬戸賢一・他 (編). 2007. 『英語多義ネットワーク辞典』小学館.

辻幸夫 (編). 2013. 『新編 認知言語学キーワード事典』研究社.

堤正典. 1989. 「Vendler の分類とロシア語動詞」 *Lexicon* 18: 28-38.